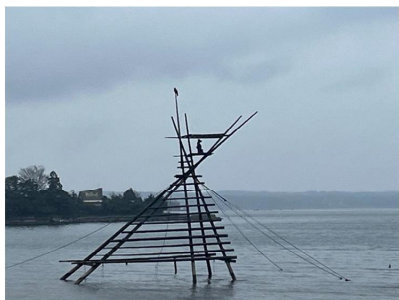


実践報告

能登半島地震支援より、災害時保健活動に必要な平時の取り組みについて

「大阪府の穴水町におけるDHEAT活動より」
～地域の保健医療福祉調整本部活動に必要なこと～



穴水町のシンボル ボラ待ちやぐら

令和6年9月3日

令和6年度「保健師等ブロック別研修会(近畿ブロック)」

大阪府和泉保健所 地域保健課 杉山真理子

大阪府DHEAT派遣状況

派遣先:石川県能登北部保健所【活動拠点:穴水町保健センター】

班構成:医師(班長)1名、保健師2名、ロジ2名

派遣期間:当初予定 **第1班 1月6日～1月12日**

第2班 1月12日～1月18日

第3班 1月18日～1月24日

→山梨県へ引継ぎ

追加派遣 第4班 2月6日～2月13日

第5班 2月13日～2月19日

第6班 2月19日～2月25日

→新潟県へ引継ぎ



穴水町保健センター

延派遣数:約220名(大阪府を中心に堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市、吹田市の職員を含む)

第1班派遣まで

1月1日 16時10分	発災
1月3日	厚生労働省より大阪府へ DHEAT (派遣先:能登北部保健福祉センター他)及び保健師(派遣先:能登半島地方の避難所等)の 派遣依頼 あり
1月4日 夕方	大阪府として 1～3班 までの体制確保、厚生労働省へ1月6日から活動できる旨回答 第1班の保健師として派遣メンバーにエントリー されたとの連絡
1月5日 朝	大阪府のDHEAT派遣が決定
16時	大阪府庁にて大阪府 DHEAT 出発式および派遣前オリエンテーション
1月6日 8時30分	大阪府庁出発



3

大阪府DHEAT第1班 活動方針

メンバー: 医師(班長)1名、保健師2名、ロジ2名(医師、薬剤師)

●DHEAT活動方針(DHEAT活動ハンドブック第2版)の共有

DHEAT活動のあり方(P18)

- ・被災地職員は膨大な業務を抱え、心理的・身体的負担が大きくなっており、自らの業務を整理することが困難な状況に陥ります。
- ・**DHEAT**は常に被災地職員の味方となり、寄り添った支援を行います。
- ・指導的な態度や指示待ちではなく、提案型で助言し、**DHEAT**自らそれを実行する形での支援を心がけましょう。
- ・被災地職員が連携の中心となり、調整の主体として活動できるように、支援することが大切です。

被災地職員がDHEATに期待する活動(P21)

- ・**DHEAT**には先を見越した助言と提案が求められています。平時から災害の各フェーズで起こりうる事象を学び、予防的な視点で助言できるように準備しておきましょう。
- ・被災地職員に対して、「それは当たり前」、「〇〇すべき」、「どうしてこれをしていないの」、「これ知らないんですか」のような態度や、「何でもできますよ」、「何でも言ってください」のような指示待ちの姿勢ではなく、「こういうことも必要だと思いますが、もしよかったら案を作ってみますよ」、「こういうまとめ方もありますよ」、「私たちにこういうことができますよ」等の提案型で助言し、**DHEAT**自らそれを実行するという形での支援をすすめましょう。

●保健師活動方針

「保健師会議を立ち上げること」 「町の保健師を休ませる体制をつくること」

4

穴水町における大阪府DHEAT活動（第1班）

穴水町の被害状況の把握

穴水町保健師の活動状況の把握、保健活動の支援

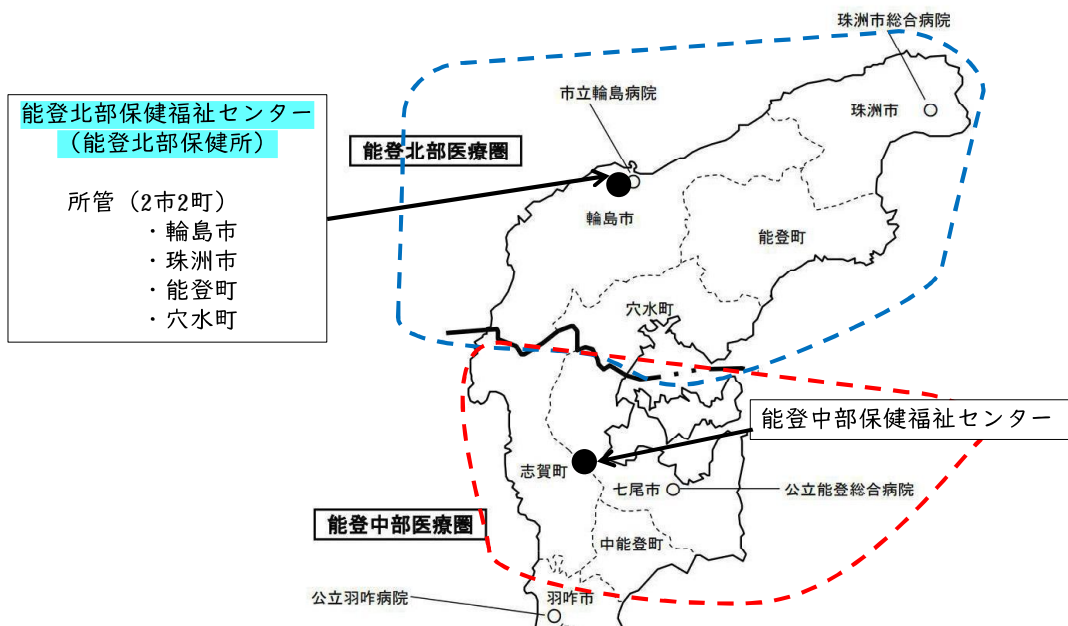
DHEAT活動拠点の確保（能登北部保健所穴水町臨時出張所）、
町役場やDMAT、他の地域医療支援チームとの指揮命令系統の確認、調整

石川県庁・能登北部保健所との指揮命令系統の確認、調整
各種会議への参加による情報収集、課題の共有

避難所のアセスメント

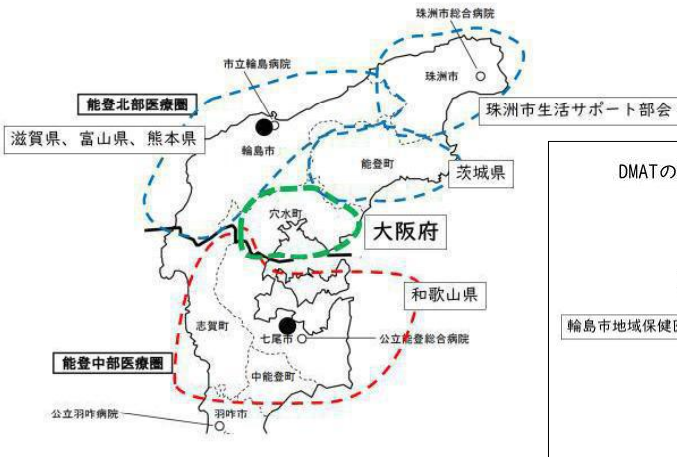
保健師活動の立ち上げ

能登北部保健福祉センター（能登北部保健所）、災害拠点病院配置図



DHEATの配置状況

DHEATの配置 (1月7日)



DMATの配置 (1月6日)



1月6日石川県庁ブリーフィング

県庁内 保健医療調整本部

<副本部長>

- 穴水町は約半数が避難と言われている
- 高齢者施設が取り残されないように

<ロジ部門>

- 穴水町は通信状況が悪い
- 穴水町までの渋滞がひどい
- 物資が滞っている
- 高齢者施設のスクリーニングが必要
- 在宅酸素は業者と協力体制確立した
- 能登の活動拠点本部である能登総合病院との連携必要

県庁内 災害対策本部事務局

<関西広域連合(派遣)より>

- 穴水町は通信、電気、水道等含め状況がよくない
- 役場がどの程度機能しているかも確認できていない

石川県健康福祉部

<県庁統括DHEATより>

- 報道の通り悲惨な状況
- 天候が悪くなる予報、道路状況も悪い
- 孤立集落等がまだ多々ありDMATが把握に努めている
- 避難所、人口の半数近くが生活している
- 避難所は劣悪な生活環境、感染症も発生している
- 穴水町はDMAT活動拠点等なく、保健所も活動できていないため、町が単独で活動しないとけない状況
- 町中心に保健医療福祉の連携を進めていきたい
- 県庁と意見交換しながら、保健所のランチを立ち上げ、最終的に戻していく
- 金沢市内に1.5次避難所を開設予定で調整中
- 医療が必要な時期から健康管理の時期に来るので、避難所で体調不良者等重点的に

<県統括保健師より>

- 保健師の派遣を明日から修正
- 明日から派遣される石川県保健師は大阪府DHEATと合流するよう説明している
- 穴水町の保健師は、唯一町につながる電話を持っており、様々な電話対応に追われ、疲労がたまっている

1月7日DHEAT活動開始時の町の状況(町統括保健師より)

・町の被害状況

町全体が被災、全体の被害状況が把握できていない
 ライフラインがだめ(水×、電話回線×、電気のみ○)
 土砂崩れにより町役場のサーバーがダウン
 道路状況が悪く、アクセス不良(町内30分が3時間以上かかる)



・町の管内状況

人口約**7,500**人弱、世帯数約**3,500**世帯、高齢化率約**50%**
 年間出生児数約**30**人、人工呼吸器装着者なし、在宅酸素数名(業者が対応開始)

・町の保健師の体制

町の人口減に伴い町職員も削減
 保健師は母子保健部門と住民福祉課に配属



・町統括保健師として困っていること

「全体状況が把握できていない」
 「どう対処してよいか、整理ができていない」
 「在宅患者の状況把握ができていない」(町役場のサーバーがダウンし必要な情報にアクセスできない)
 「1月9日から開庁する?と聞いている」
 「保健師だけ休むことはできない」

9

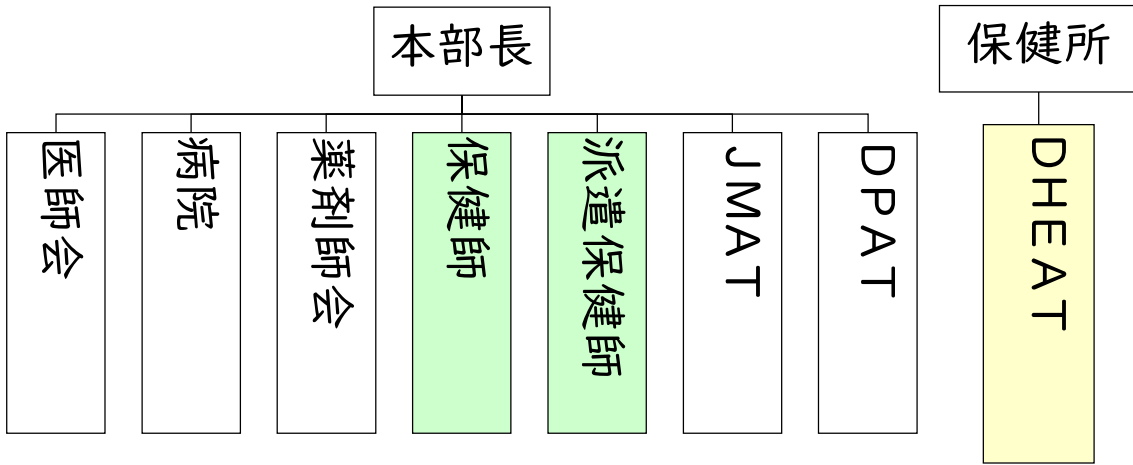
穴水町の保健師さんの発災後の業務内容

- ・町災害対策本部会議、県庁会議、他、複数の災害関連会議への参加し情報収集や伝達
- ・避難所運営、巡回、健康相談
- ・避難所啓発資料作成、印刷
- ・所属する課の業務(保健師以外の職種は災害対策本部や物資班のサポート等へ)
- ・県庁からの照会への回答
- ・災害対策事業(1.5次、2次避難)への対応
- ・プッシュ型で派遣される応援職員の対応、調整
(場所の確保、道案内、DMAT診療記録の管理、書類の補充、トイレ掃除、他)
- ・各種電話対応(ありとあらゆる機関、関係者、町民)

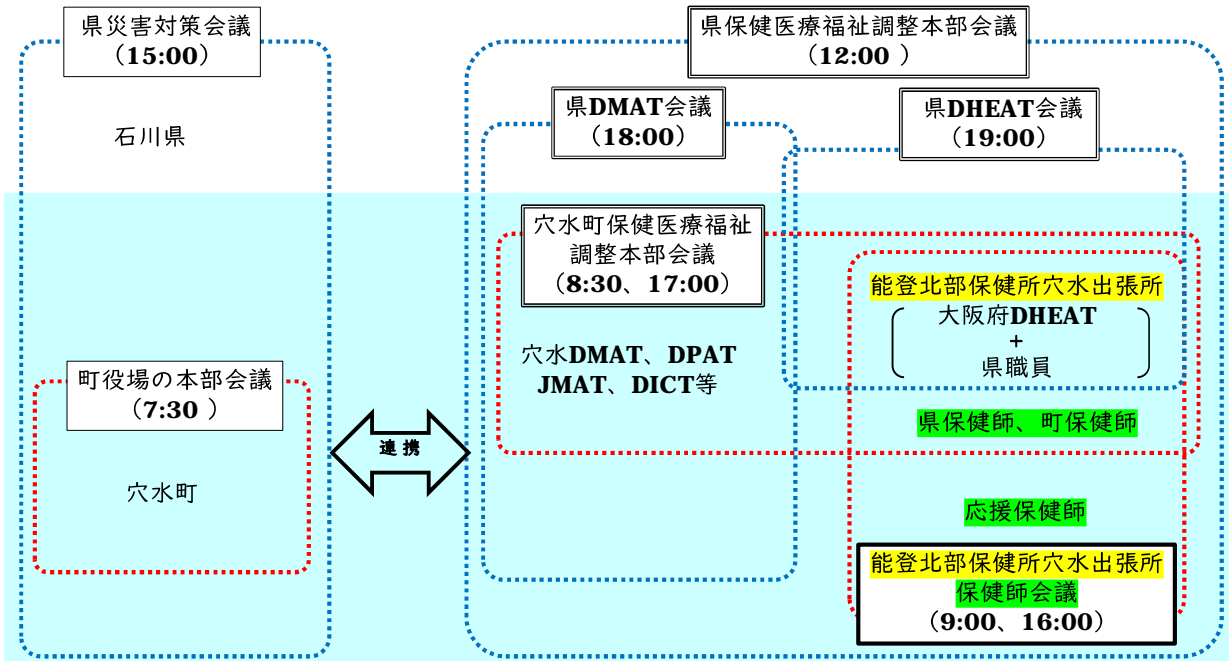
保健師も被災し、役場等に泊まり込みながら不休で活動

10

1月7日穴水町到着直後の組織体制図



1月12日組織体制図 (1月12日現在 時間は目安)



避難所の見える化

1月7日穴水町活動開始時

- ・ 名称と所在地の一覧表のみ
- ・ 指定避難所以外の自主避難所が複数あり
- ・ 災害対策本部の避難所番号や名称と一致していない
- ・ 地域別に分けられておらず、土地勘がないため訪問計画が立てにくい

第1段階(位置をプロット)



第2段階(エリア分け)



1班最終形 (グーグルマップで検索可能に)



特定の1地点を光らせるためには、ここをタップ



登録している地点一覧が表示されるので、見たい場所をタップ



上部の地図上でその場所が光ります(地図のズームも可能です。)下部には登録した情報が表示されます。



こちらのチェックを付ける・外すことで、避難所・施設それぞれのみの表示も可能です。

大阪府DHEAT第1班 保健師活動内容

1 穴水町支援保健師との連携、保健活動の支援

- ・ 地震以降の勤務状況や対応経過について確認
- ・ 穴水町の地区概要について確認、地区基礎資料作成
- ・ 保健師の組織体制について確認、休暇が確保できるよう調整
- ・ 保健センターの未就学児の安否確認を派遣保健師が支援できるよう調整
- ・ 町の統括保健師と保健医療福祉調整本部(施設班)との調整に同席

2 石川県中央保健所との連携、保健師活動の支援

- ・ DHEATの役割、石川県中央保健所の役割について調整
- ・ 石川県保健師に負担がかかりすぎないように、連携・相談しながら派遣保健師業務の調整を行う

3 穴水町保健師、石川県保健師、派遣保健師の合同保健師チーム会議の立ち上げ

- ・ 保健師会議を立ち上げ、会議時間、開催方法等を保健師間で協議し決定
- ・ 派遣保健師の活動方針についての協議、決定
- ・ その他、保健師チームの活動に必要な情報の収集や資料、会議録等の作成

4 保健師チームラインの立ち上げ

- ・ チームラインの管理、運用ルールづくり(ラインは情報共有のみ、協議・決定は保健師会議)

5 派遣保健師による保健活動の立ち上げ

- ・ 自治体ごとの担当地域を決定し、保健師活動を継続して行う体制づくり

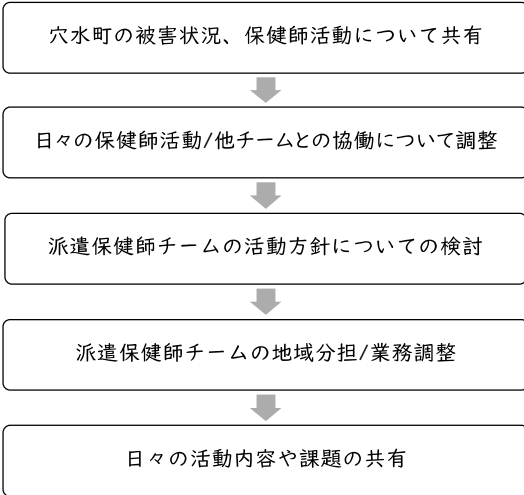
6 保健師チームと保健福祉医療調整本部との連携について調整

7 保健師チームに必要な資料の作成、保健師チーム部屋への掲示やチームライン等による共有



保健師活動の立ち上げ

保健師活動/保健師会議の立ち上げ



保健師活動の1日の流れ

(8:30)	(穴水町保健医療福祉調整本部会議:WEB併用) (参加は任意)
9時集合	保健師会議 訪問予定等の確認 県や町、保健医療福祉本部会議からの情報共有
	避難所訪問等保健師活動
16時	保健師会議 活動報告、避難所の課題等の共有 明日の訪問予定等の共有
終了後解散	
(17時)	(穴水町保健医療福祉調整本部会議:WEB併用) (参加は任意)

保健師活動に関する資料の作成

穴水町(あなみずまち)地域資料

R6.1.12現在 大阪DHEAT作成

- 保健師体制
- 人口、世帯数、独居高齢者世帯、等
- 高齢化率、後期高齢化率、介護認定者数
在宅介護実態調査 要介護3~5
- 出生数、母子手帳発行数
- 身障手帳、療育手帳、精神手帳、通院公費
- 在宅人工呼吸器、医ケア見
- 在宅酸素
- 要対協台帳登録児
- 結核内服中患者
- 福祉施設(高齢者、障がい者関係、児童関係)
- 避難所開設状況、福祉避難所
避難所課題
- 町内医療機関(病院、診療所、歯科)、薬局
- ライフライン
- その他
死亡者、不明者、家屋被害
自衛隊支援(風呂、炊き出し)物資拠点、家庭ごみ回収

他に

- ・穴水町保健師へのオリエンテーション資料
- ・大阪府DHEAT保健師引継ぎファイル

2024/1/10大阪DHEAT作成(随時更新)

穴水町保健師チーム地区担当

地区	自治体名	保健師
1	金沢市	2人
2	青森県	2人
3	静岡県	3人
4	白山市(1/12-17は兵庫県)	2人
5・6	兵庫県	2人

【基本姿勢】

- ・お互いに助け合う
- ・穴水町地域医療救護活動支援室、DMAT他と情報共有・協力して活動する
- ・今後、避難所数の変化などの状況により、分担を調整する
- ・避難所以外にも、在宅の方、車中泊対応も行っていく

【様式】

- 避難所アセスメントシート
- 様式4 健康相談表 各自自治体でファイリング
- 様式5 健康相談連名簿(原本は石川県保健師、個人情報消したコピーを石川県庁)
- 【当面の活動方針】

震災関連死亡を防ぐ

- ・各エリア避難所の全体像を把握。1週間以内に避難所を一巡。一度も保健師が入っていないところから
- ・健康2次被害を予防するため、避難所の感染対策、持病(精神疾患含む)の管理、育児・妊婦
- ・医療が必要な方は、基本通常診療につなぐ

DHEAT活動を経験して学んだこと

- 災害時であっても保健師活動の基本的な視点は変わらない。
- **DHEAT**活動拠点の確保や他の支援チームとの連携体制を構築するためには、多種多様な支援チームが互いの活動目的を共有することが必要。積極的にコミュニケーションをとっていくことに加え、活動目的や体制図等、視覚化して共有することが有効。
- 災害時には複数の会議が開催される。それぞれの会議の開催目的を理解し、参加者一同が各チームの活動状況や被災地の現状・課題を共有できるよう、限られた時間で各チームが報告できるように進行することが重要。
- 被災地の職員の負担軽減を行うだけでなく、一部の支援チームの職員に負担がかかりすぎないように、互いの活動内容、活動量を共有、調整していくことが必要。
- **DHEAT**活動メンバーで常に情報を共有し、刻々と変化する状況に合わせ、先を見越しながら活動方針など検討、調整を協力しながら行っていくことが重要。派遣元との連携および後方支援も不可欠。
- 次の**DHEAT**班への引継ぎは、現地では十分時間が取れないため、日々の活動報告を共有する等、活動開始時点から引継ぎを意識して行うことが重要。自治体を越える引継ぎについても工夫が必要。
- 「完璧を求めすぎず、少しずつできることから取り組んでいく」ことを、日々互いに声を掛け合いながら活動を行っていくこと、毎日の活動終了のリセットルールをチームで決めておくことも大切。

17

おわりに

- 平時の準備は大切、特に受援体制
 - 地区基礎資料、地区概要
 - 避難所の地区分け（移動ルート、土地勘等、現地の人でないとわからない）
 - 避難所のレイアウトについて開設担当者との共有
 - 災害時要援護者リストの作成、管理
 - 全戸訪問対象者の抽出、リスト作成
 - 保健師、医療チーム共有の記録様式の準備、共有
 - 支援チームの活動場所の確保
- 被災、受援を想定した訓練の実施
- 管内の保健活動について、
保健所と市町村が互いの業務内容
を知っておくこと（顔の見える関係）



活動終了日の朝 移動中に見えた虹

